

各教科の今後の課題

国語科

三年間を見通した系統的な言語活動の実践をさらに推進する。
読書環境をより一層整え、読書単元を積極的に取り入れる。それによって、読書意欲を喚起し、読解力の向上につなげていく。
授業の中に意見交流の場を計画的に設定し、学び合いをより充実させる。

音楽科

基礎的・基本的な知識や表現の技能の習得と共に、より豊かな感性を育めるような教材の選択に努め、教具の充実を図る。
様々な表現活動を通して、互いに話し合い、教え合うことで、意欲の向上、表現力の育成に努める。
少ない時間で様々な学習を取り入れるために、効率のよい指導方法の工夫をする。

社会科

実物資料や IT 機器を駆使して、生徒の興味・関心を高め、生徒が分かる授業を心がける。
社会的事象に、興味・関心をもって、主体的に課題を追究しようとする生徒を育成する。
指導と評価の一体化を図り、授業につまずいた生徒に早めに対応できるよう心がける。
ワークシートの課題に主体的に取り組み、資料活用能力、思考力、判断力、表現力の育成に努める。

美術科

目標設定等の定着を図り、より作業時間を多く確保することにより、実際に手を使う場面を多く作り、習うよりも慣れさせられるように指導していきたい。
毎時間ごと、短い時間の中でも言語活動を取り入れ、互いの考えを共有したり、学び合いをすることで、より意欲をもって作品作りに取り組んでいけるよう、今後も進めていく。

数学科

学力の個人差がこれ以上広がらないように、反復を取り入れながら、基礎的・基本的な学習内容が身に付くような取組を充実させる。
互いの考えを共有したり、教え合いや学び合いをしたりする言語活動を充実させて、数学的な見方や考え方を高め、思考力、表現力の育成を図る。

保健体育科

今後はさらに視聴覚教材や資料が活用できるようにさせ、各種目の基礎的な知識や技能を身に付けると同時に、互いに高め合えるように学んだ事柄を相手に伝える力、アドバイスする力を身に付けさせる。

理科

反復学習を取り入れて、基礎・基本の定着を図り、それを土台とした科学的な思考力、応用力の育成に努める。また分野の違いによる苦手意識を軽減させる。
言語活動を充実させ、学び合いの機会を取り入れた授業展開を行う。また観察、実験を中心とした授業を増やし、実体験に基づいた考察力を養う。

技術・家庭科（技術分野）

三年間を見通した学習計画の作成を行い、体験的な内容から技能の習得を目指した授業の展開をする。また、ワークシートや自己評価表を工夫し、毎回の授業内容を振り返ることで、生徒それぞれが日常生活において工夫できる力を養う。
実習と理論の時間のバランスをとり、学び合いや教え合いの奨励を継続していく。

英語科

学力の個人差を縮めるために、毎回の授業で個々の生徒に応じて、家庭学習や補習等も利用しながら、基礎的な英語力を身に付けていけるようにする。
生徒にとって必要な語彙力や基礎的な知識をしっかりと身に付けさせ、さらにそれを活用していく場面をより多く授業で取り入れていく。

技術・家庭科（家庭分野）

生活の自立を目標に、基礎的・基本的な知識の定着を図るために、適切な教材を選び、効果的に実習を取り入れて授業を展開していく。
実習時間の確保に心がけ、「サブティーチャー」を育成し、さらに学び合いの機会をつくるようにする。